

# 南アルプス市立白根巨摩中学校 学校関係者評価書（後期）

白根巨摩中学校 第2回 学校関係者評価委員会

令和8年1月20日作成

実施日 令和8年1月19日（月） 午後5時～  
会場 白根巨摩中学校 校長室  
参加者 学校関係者評価委員 6名（五十音順）  
浅利 司（元白根巨摩中校長）  
渡辺 次朗（渡辺新聞店社長）  
中込 正一（在家塚地区自治会長）  
安達 映美（白根女性団体連絡協議会代表）  
内藤 永次（山梨中央銀行白根支店長）  
吉田 稔（PTA会長）  
学校職員 3名  
矢吹 和信（校長）  
雨宮 文（教頭）  
塩谷 茂美（生徒指導主事）

## 内容

- 1 学校から提案された内容
  - (1) 生徒の生活について
  - (2) 後期アンケート結果について
  - (3) 後期学校評価の自己評価について
- 2 評価されたおもな内容  
領域別・評価項目別の自己評価考察および意見交換

## 学校関係者評価

### 1 全体評価

後期の教職員によるアンケート結果は、前期とほぼ同様の平均4.6（A-5点 B-4点 C-2点 D-1点として平均を出したもの）となった。生徒アンケートも全項目において、保護者アンケートもほとんどの項目において、指標とする平均4.0を上回っている。これらの結果は、職員一人一人の意識が高く、職員が同じ方向を向き、組織として取り組んでいる成果であり、学校運営は良好に行われていると考えられる。

今後さらに「子ども主体の授業づくり」を推進し、生徒が学ぶことの楽しさを実感できるよう、日々の授業改善に取り組んでいく。また、ICTの効果的な活用や保護者との連携をさらに推進し、基礎学力・家庭学習の定着を図っていきたい。

また、「不登校生徒への対応」等の課題を踏まえながら、職員がチームとなって、個々の生徒や保護者に寄り添った支援を継続していくことが必要である。引き続き関係機関との連携を深めながら、きめ細かな教育実践に努めていく。

白根巨摩中学校は演劇や合唱等、長い歴史の上に築かれた文化があり、保護者も地域もとても関心が高い。来年度にむけて、白根巨摩中学校として、何を大事にしながら教育活動を展開していくのか、どのような工夫を行って教育効果を高めていくか、教職員で確認をしながら取り組んでいく。

## 2 出された意見

- ・生徒の様子やアンケートから、生徒も落ち着いて生活している様子が見える。先生方が個々の生徒や保護者への対応をきめ細かく行っており、よくがんばっている成果である。生徒と先生方が一丸となり巨摩中の伝統を発展させていってほしい。
- ・保護者の関心は、学力の定着だけでなく、行事などで子どもたちががんばる姿を見たいという声も聞く。合唱等の参観率も高い。子どもの良いところを見ようとしてくれる。これからも情報を発信し、保護者の理解、協力も得ながら、子どもたちのよりよい成長を育んでいきたい。
- ・巨摩中の歴史を見ると、行事はとても意味がある。学園祭も合唱も素晴らしい取組である。一方で、先生方がやる気をもって健康に取り組んで頂けることが何よりだと考える。部活動の地域移行等が進み、働きやすい職場となるとよい。
- ・部活動に関しては、生徒にしても保護者にしても、もっとやってほしいという意見と、楽しく活動したいという意見がある。朝練に関しても、同様である。アンケート結果には載っていない部活をもっとやってほしいという意見も大事にしていきたい。
- ・不登校生徒数は全国的にも増加傾向にある。原因も多様で、個別の丁寧な対応が求められている。完全不登校の生徒は、小学校から継続しての生徒であり、学校以外の情報も提示しているが、なかなか足が向かない現状にある。学校以外でも学びの場はあり、登校したことになったりもする。白根巨摩中としては、フリースクールの利用者は1名。市としては、ウイングも開設しており、多様な学びに対応している。生徒に情報を提供し、つながるところがない孤立した状態にしないようにしたい。
- ・スマホや SNS の扱いに関しては、どの学校でも課題が多い。関連するトラブルも増加している。生徒自身が使い方を見直す機会となるような集会を開いたり、トラブルの内容をオープンにしたりして、生徒に注意喚起を行っていく。
- ・クラスに友達が一人もいない、と記した生徒に対しても、担任や学年職員が中心となり、きめ細かく声掛けを行っている。友だちをつくることが現代の子たちは難しい。また、友だちという捉え方も小学校からの関係にいつまでも固執してる生徒もいる。ただ、様々な活動や授業をしている際に独りになってしまい仲間と一緒に活動できない生徒はいない。今後、日々の教育活動や行事などを通して、友だちとの人間関係づくりにもさらに力をいれていく。
- ・ICTの活用が進む中で、ノートに書いたり、直接話をしたりすることで、理解が深まったり、記憶の定着が図られることも事実。様々なものを組み合わせて、生徒の生きる力を育んでいってほしい。

## 3 特記事項

○評価委員より、次の3点について今後も学校経営の課題として取り組むよう提言があった。

- ① 子ども主体の授業づくりを通してわかる授業の積み重ね
- ② 不登校等の生徒への継続的な関わり
- ③ ICTの効果的な活用と情報モラル教育のさらなる推進

記載責任者

白根巨摩中学校 学校関係者評価委員会 委員長 浅利 司